

三河 アララギ

2026年 令和8年1月 睦月
むつき

新 年 号

第七十三巻 第一号



ニューヨーク日記(231) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

ART BASEL MIAMI 2025

Blue Shoe Diaries



今年もマイアミのこの季節がやってきましたね。世界中から人が押し寄せるマイアミ・アートウィーク、そしてアート・バーゼル。街の空気はどこかピリッとエネルギーギッシュで、人々のファッションは二度見必至。街の至るところにアートが溢れていて、それが素晴らしいか、それともただの「？」かは、見る人次第。今年のFAENAのインスタレーションは、エス・デヴリンの《Library of Us》。鏡面仕上げの三角型の本棚が、自分たち自身を映し出すような仕掛けで、マイアミ・アートウィークの空気感にぴったり。ちなみに、この週に causeway を渡ろうとする人へ一言：覚悟とスナックを忘れずに。

It's that time of year again in Miami. The art world descends on Miami Beach for Art Basel and **Miami Art Week**—and suddenly, everything is electric. The outfits are wild (sometimes genius, sometimes confusing), and art is everywhere. Whether it's breathtaking or just plain bizarre... well, that's for you to decide. This year's installation at the Faena really captured the spirit of the week: **Es Devlin's "Library of Us"**, a glowing, mirrored bookshelf pyramid reflecting the crowd back at itself. A little philosophical, a little selfie-ready—very Miami Art Week. Oh, and don't forget: if you're trying to cross the causeway this week, pack your patience (and maybe a snack).

目次

第七十三巻第一号(通巻八六五号)

表紙・祐之画	(1)		
ニューヨーク日記(23)	Blue Shoe (2)	森 厚子 (26)	五感を澄ませば(43)
歌集 わが冬葵	御津 磯夫 (4)	水野 絹子 (26)	附録(四十三)
歌集「草々」	今泉 米子 (5)	大武 智子 (27)	『旧き友人たちと新しい年を迎える』
ははきくさⅢ	大須賀寿恵 (6)	現代学生百人一首 東洋大学	中屋 保之 (40)
三河アララギ歌集Ⅳ	夏目 勝弘 (7)	仲明 快 (28)	『酔いの徒然』(165)
『歌集 八千代』	岡本八千代 (8)	倉井 遙花 (28)	『風の広場／雀百まで』
儂む	今泉 由利 (10)	内村 佳保 (28)	『絹の話(3)
白萩やさし	安藤 和代 (12)	福永 真夕 (28)	『江上浩二の独り言』
ソーラーパネル	山口千恵子 (14)	高橋 海舟 (29)	初狩便り50
インスタ	杉浦恵美子 (16)	森谷昂之心 (29)	花野みぶり (50)
道	伊藤 忠男 (18)	大谷 柚葉 (29)	本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬
庭中改修【その十七】	白井 信昭 (20)	幸田 茉花 (29)	康鍼治療院
家族旅行	矢崎 直人 (22)	植村 公女 (30)	玄 翁 (54)
『いーとよせ』	いーはとぶ	木村 歩歩 (30)	遥かに秋蟬を聴く墓前に作る有り
		今泉 如雲 (30)	殿山 木風 (56)
		矢崎 直人 (31)	Circles of Time
		今泉 由利 (31)	Atiya Hussain (58)
		木 風 (32)	編集室だより
		ふじのけんじ (34)	今泉 由利 (60)
			「三河アララギ」について (62)
折々の詩(二十三)			

歌集 わが冬葵

御 津 磯 夫

老人班らうじんはんの腕かひなを嘆ききたれるに我のも見せてまだ死ぬものか

耳遠き老幾らうたりに食を説きわが口渴きのみどいらいら

行きづまりも轉換もなくすぎて來つ怠りながらわがゆく道を

まつすぐに青若竹ののびたちてその秀のとがりいまだ撓ななめまず

古きこと新らしくせる書を讀む木の蔭くらき窓に臥りて

石の間より伸びたる竹はつぎつぎに竹の皮おとすその石の上

梅雨のあがる昨夜の雷は社守役しゃもりやくの平さへいのあたりに一つおちたり

何のため降りて來たりしか分らずと讀みてわが手の茂吉おをおとす

庭のうちのみどりにかくれ細くして戦をのきやすし風を知る草

埋むればなほも殖えゆくは水葱なぎといふ劑くすりに負けぬいのちこもれり

歌集「草々」

今 泉 米 子

胡桃高く繁りて道に蔭なせり一昨年來しは春まだきにて

豚のヴィールス話したまふを聞きてをり花蕊のこれる泰山木によりて

片言に云へるを幾度も聞き直すかたまる積木はジャンボゼットキ

たちてうごかぬ山の縁とうたひてし石巻山をかくすスモッグ

足もとの石塊いましめて一列にふみしめて登りき石巻の山

山の上に二十四人の晝の膳かたき野蒜もわれはのみこむ

わが海に遊びし幼の腓を洗ふまつはるへドロの水に流れず

白沙の渚を知らずわが幼子黝きつぽ貝一つ握りて

わが家廣く遊びはしやぎて熱を出す東京久我山の幼孫たち

まだ稚き蓮華寺楓めぐりつつすべりひゆ咲く太々として

はゝきくさⅢ

大須賀寿恵

ハト麦を飲み始めてより十三日胸乳張り来るごとき痛みに
にじみ来り流れて止まぬ顔の汗体温調節も出来ぬスモンか
痛みある大腿圧せばたちまちに腰椎にまで疼きは走る

夏期休暇とりて一日を臥してゐむ鳳来寺百合の匂へる室に

蒲団干し金魚も買ひて日曜日樂しかりけり夕茜する

起きいでて五十分あまり経ちしころ病むわが足の歩み馴れゆく

指導する意欲なければ吾が席を早く退かむと日々に焦立つ

指導らしきこと吾がなさず誤字脱字多き資料も詮なしとする

出張は一泊にして汗拭きの大ハンカチを手提げに加ふ

水量は常とかはらぬ坪野川何に濁れる水の流るる

三河アララギ歌集Ⅳ

夏目勝弘

物音の絶ゆるときあり寝たるまま左の肩をひとり按摩す

逃げ水を追ひゐる如く歩みゆく第二臨調を疑ひなどして

柿畑に白きチャボの骸あり熱もつ風に羽根毛逆立つ

出入りの客の動きの度ごとに舗装の焼けたる匂ひ入りくる

万年筆にインクを満たし寝むるとす吹きゐる風の網戸透さず

壁土に混じれる雲母の光りたり格子戸通る風の涼しさ

さ夜中に目覚むる癖のつきにけりアルミの雨戸が戸袋に鳴る

火吹竹に息をゆつくり送りゆく間近に爆ずる炭火美し

庭中を吹き抜けてゆく風のあり揺らがぬ位置を剪刀股^{デシバリ}は保つ

西風に流されきたれる絮一つ我が庭の上にて右に曲りぬ

『歌集 八千代』

蒲郡 岡本八千代

二百年も覚生院に祀りゐし古き墓二つ移さむとする

ふたたび父の御骨を起したり風のつめたき春の彼岸に

ひととせも経たざる父の骨白し空風火水地の五輪塔に入るる

先祖の墓二つを移し古き順に並べ替へをり春疾風の中

手にとりてわがふたたびを悲しまず父のみ骨を土に納むる

七つ並ぶ中ひとつの父の墓我のやがての墓と心に決めぬ

輪廻することを信じて父の御骨埋めたる土をわれは足に踏む

悲しみの何ゆえわかず春風の吹きすぐる中の墓の黒き土

あてどなく乗りて降り立つ電柱の文字は小さし扇ヶ谷一丁目

父の在りし春の日に来しことありぬけふは鳩サブレの店の前にゐる

すぐ前に若宮大路の見えをりてモーニングサービスの喫茶店に入る

鳩サブレ売りゐる庭も素通りしてま昼の参道を横切りてゆく

段葛だんかつらの並木の桜咲かずして鎌倉の街の空はあかるい

梅の香のただよふ細き路を来てそこより低き坂道となる

葉蔭より窟にさし入る春の日は実朝の墓にゆれて当れり

儚む

東京 今泉 由利

カタカゴ・ヤマスゲ・ワスレグサ・ヒメユリ……ユリ科私の一世をここにつなぐ
人工の明りなくしてただに闇氷河の軋む音聞こえる

まん円の月の明りの届きある一万メートル上空飛行機の窓

ゆらゆらとゆらぎをり太陽光太陽の出来し次第をしのぶ

方角は確かではないまた会はむことのはかなさ残りをりつつ

遠く遠く丸き地球を行き来せりセリーナ・アラウス・ペラルタ・ラモス・デ・ピロバーノ

バルセロナより来たりし人とスペイン語ありたちまち親し

スペイン語ポルトガル語に紛るるを異にせざりし長き年月

極端に嘆き哀しむタンゴのなかにしばらく入りぬ

朝の陽に勝鬨橋を午後の陽は佃大橋を描き居たりひとつ日

ゆらゆらと墨田川の川面にて太陽沈みゆきゆく次第

三河湾の磯砂辺りに育ちにき地球半周の先ブエノスアイレス親し

良き日々ありきセリーナさんとモレノ氷河の終着地点

父上を母上をまた忍びをりはやゆかむとする秋の一つ日

彫りあげし雲中菩薩に千年の木目浮き見ゆるこの朝

白萩やさし

豊川 安藤 和代

あかときの鎮守の森の静けさを抜いて一羽の鳩の飛び立つ

食堂で会えば必ず握手する友の手いつも温かであり

仲よきは美しき事雀二羽何やら拾うホームの庭に

右に行き左に行きて歩を合わす鳩も仲よしフェンスに遊ぶ

花も又青葉美し桜木よ今落葉が庭を色どる

文化の日朝の空に虹を見し何か佳き事ありそうな今日

「大丈夫？」咳する吾れに廊下から声かけくるる友ありて「幸」

四世代十人暮らした日ははるか夢ではないかとゆく雲に問う

「正月は帰っておいで」友からのハガキ一枚胸深く抱く

窓に見る柿の実日毎色増せば故郷思う幼日憶う

目悪い腕が痛いと言いつつも捨てられませんか短歌詠み人を

秋夜長微睡にふと見し夢の母は若かり父も若かり

古里の山路をゆけば遅れ咲く白萩やさし白をこぼさず

短か日に鴉も寝ぐらに急ぎゆく吾れも行きたし柿実る里

街の灯のきらめでの中ミニカーの如き列車の吸い込まれゆく

ソーラーパネル

豊川 山口千恵子

見上げゐる庭の木になる柿五つ大木になり柿の木古りたり

広々と耕作放棄地と見ゆる畑にソーラーパネル設置されゆく

南瓜などつくりゐし畑に置かれゆくぴかぴか陽に映ゆるソーラーパネル

裏山に松茸とりに祖母につきゆきたりき松葉つくつく

松茸は高価なものにあらざりき煮かけうどんにみそ汁の具に

刈り田より雀ばらばら舞ひ上がり小さき群になりてとびゆく

無人なる隣家は冬陽にしずまりゐて石路の黄に黄の蝶遊ぶ

紅と白と黄色の菊は満開に切りて持ちゆく墓の供華に

すべて菊飾りて今朝のひと仕事仏壇玄関テーブルの上

冬の陽を浴びて大きく育ちゆけなよなよ苗のキャベツ植ゑたり

天空に花開きたる皇帝ダリア冬の陽の中にゆらゆらゆらと

自動ドア開きて入りて戸惑いゐるクマの映像何か悲しき

街中に出没し被害の報多し駆除されし熊の胃空なりと

雨上がりの空うつりゐる水溜り澄める青空に白き雲うく

ゆがみなど無きごとく見ゆアスファルト道路昨夜の雨たまる水溜りあり

インスタ

蒲郡 杉浦恵美子

ウィリアムどうやら恋人出来たらしインスタに知るブロンド乙女

四兄弟最初の彼女が出現かオーストラリアのダリモア一家

ウィリアム次男坊なり兄よりも背は高いはすばしっこい

箱根にては水も漏らさぬ七人の家族も変化半年経てば

一家総出日本への旅もしかして最初で最後の家族の団欒

さればこそ二匹の犬を人に預け一家揃って日本への旅

年嵩が十八末子の十歳は一家総出の限界ならん

母ローズ溢れる程の愛情を子等に注げど巢立ちは始まる

母ローズ次男の彼女如何に思ふ五人を両手に抱へしものを

インスタをだらだら見ればゆくりなく海の彼方の一家を垣間見

知らぬ間に我が関心は父ダンよりそれぞれの子に移りてをれり

父ダンのこの年頃は日本への留学にこそ気持ちちが向きけり

おそらくは海外見ることそれほどの大事にあらず子等にとりては

現代は世界の何処もインスタに見るのと同じ子等にとりては

言語など覚えなくとも意思疎通できる今の世歓迎すべきか

「道」

大阪 伊藤 忠 男

道路沿い色づく木々に目がとまるそうか今は晩秋なるか

東名と景色異なる新東名人里見えず田畑少なし

トンネルを抜けてトンネルまたもまた山あい通りまたもトンネル

長距離の運転疲れか節々の痛み明日まで残る歳なり

船出せし秋空のぞく海の道遥か彼方に七色の虹

次郎長の目には新茶を積み込んでロスに向かうや蒸気の煙

静岡市清水港の一の一何とその場所山梨の土地

戯れるカモメにつられ顔を出す富士の高嶺は愛くるしこと

秋なりて霞む雲間に顔を出す富士のいただき白く輝く

各地とも今年の秋は様変わり熊肥え馬が痩せ細る

我が庵向かへば近し和歌山も熊の知らせに足が遠のく

別宅に急ぐ道幅占拠して鹿の親子が我が物顔で

友なれどライバルなりて右左道は違えど思いは同じ

同じ物二度とは見えず常は無し「空」なる世界そこにあるなり

明日は明日今日は今日とて二度と無し悔きなき日々をと祈るこの頃

庭中改修【その十七】

豊川 白井 信昭

ふるさとの海川近く住むわが家軟弱地盤に液状化リスク

海近く伊勢湾台風高潮の到達潮位三・六メートル

満ち潮の音羽川より用水路秋の大潮道端浸水

来し方の七十五年台風に床上浸水二度遭いており

縦横に単管パイプ支持台下大ハンマ持てコンクリート割る

四か所単管支持台下回り青碎石しき突き固めゆく

一つ目の重きU字溝側溝よりゆるり下ろし内向き縦置き

枯れ進むアララギ一つ根元よりバケツに幾杯入れ込みにけり

洋間にて三十五年ピアノあり孫はいつしか曲弾けたるか

アユセンの駐車場照らすLED灯建屋の上に今宵満月

角口の木香薔薇根元覆われて菊の花黄に咲く季ときとなれり

秋晴れの空広がりにてみ社にクレーン高く掛矢の音す

水はけの一つ目にしてU字溝うつ伏せにしてようやくはめり

水はけの小型U字溝当て付けにH型柱立ち上げんとす

H型のコンクリ柱繋ぎ留め豆板一枚差して立ち上ぐ

家族旅行

埼玉 矢崎 直人

荒川の川幅みたき広きうどん鴻巣長木屋スタンプラリー

鴻巣に川幅いろいろ彩うどん食ふ荒川風景描けるうどん

二回目の武蔵野うどん澤村で期間限定メニューを頼む

冬晴れや車は北へ東北道家族旅行に山形蔵王

ステーキにローストビーフに牛タンを食べるや飲むやの家族旅行

那須高原SAのソフトクリーム御用達のチーズケーキのせ

ラ・フランス山形名産道の駅箱に積まれて食べ頃を待つ

米沢の酒造所小嶋総本店安土桃山続く東光

高畠の樽の香ほのとワイナリーワインの樽の並ぶ地下蔵

冬夕焼庄内平野に出羽の山見上げるススキの背丈の高し

氷張る朝の蔵王の温泉郷スキー場まで橋の架かりて

硫黄の香包む蔵王の温泉郷煙に硫黄の香りの混じる

樅の木の庄内平野見下ろしぬ山の気蔵王の温泉郷の

夢中飛行武蔵浦和に姉妹店夢中漂流読書会行く

一文をまた一文を噛みしめるエーリック・フロム『愛するということ』

『いっしょに』

西浦公民館 いーはとぶ

例年と異なる野菜の育ち方立ち話にも話題は尽きぬ

牧原 規 恵

どこまでも深く深く掘り進めばやうやく細長サツマイモあり
噛み切れず筋の残りし芋ばかり夏の日照りの影響なのかな

いろいろな現象がわが家だけのものかと思っていました、通りかかる人との話等で皆同じだと知りました。

テレビ観る誰それあのの代名詞の会話成り立つ二人の夕餉

稲 吉 友 江

やうやうに酷暑の夏は過ぎ去りて土手の傾りに彼岸花いくつ

思ひなし炊飯の湯気は香の高し福井の娘の新米届く

普段余り意識していない彼岸花。車窓から突然妖しいまでの赤き群集を見て、季節の移ろいを感じました。

鈴木美耶子

上の子かいや下の子が使ったかちびた消しゴムわがものとなる
二度三度弾みていづこへ消えたるか使ひ古しの小さき消しゴム
いつの間に二つ並びて椅子の下わたしの消しゴム指先程の

今も残してある息子たちの学習机。引き出しから出てきた消しゴム。勉強しなさいとばかり言っていました私。

牧原正枝

朝七時パパンと花火祭りなり巻き寿司並べしバットあのまま
チャラボコは途絶えしままの秋祭り稲村山へ登りし皆は
字ごとの花火響けり祭り日よ振舞ひ時の終はりを告げる

祭りの号砲はゆつくり七時となり、チャラボコは指導者途絶え静かな祭りの一日を一人ですごくす様になりました。

ひいちゃんとかいぢおもちやの魚つり競ひて次第に糸なき程に

森 厚子

白内障一年半後の手術予約待つべきものか迷ひ居りたり

幼時よりにやあら百年と言はれつつ古希過ぎおもふ吾のありけり

じいじが次々魚をとる。見れば、つり糸を細工し、棒の先を磁石状態に。ひいちゃんは「ひいもやって。」と。

千頭から日に一便のバスに乗り先づは憩はむ湖上駅カフェ

水野 絹子

かたたとアプト式電車連結し曲がればきゆるる賑やかになり

掛川の城の天守に見ゆる富士格子の窓にひやうと風渡る

念願の大井川鐵道を体験したくて千頭まで行きました。湖上駅は美しく、残したい風景だと思いました。

大 武 智 子

メタセコイア太古の記憶を持つと言ふ母校の庭に屹立してをり
三人が三様なりし土産物三重のお茶千葉落花生われはみかんを
伊勢のお茶上総落花生われはそも三河みかんのゼリーが並ぶ

五十年ぶりの三人での再会。小春日和の佳き日、母校の庭、メタセコイアの巨木は記憶にないものでした。

現代学生百人一首

東洋大学

おはようと笑って挨拶するために二段落とした変速装置

東京農業大学第一高等学校3年 仲明 快

最近の子どもの名前読めないよ母と推測クラスの名簿

東洋大学京北中学校3年 倉井 遥花

ウクライナコロナ未来の教科書の数行分の激動の年

日本大学大学院2年 内村 佳保

引っ越しですっからかんのあたしんちまた思い出を育んでいく

普連土学園中学校2年 福永 真夕

炎天下サッカーをして汗をかく俺らの臭いまさにカメムシ

明星高等学校1年 高橋 海舟

分からないものを分からぬものとして楽しむ心スマホで消えた

早稲田大学高等学院2年 森谷 昂之心

「もう一回！」三〇分後はい王手父に勝てずにそっぽ向く夏

神奈川大学附属中学校1年 大谷 柚葉

堂々とアイス頬張る家一人こそこそ片付け証拠隠滅

神奈川大学附属中学校1年 幸田 茉花

『俳句』

トンネルを抜け初富士にぶち当る
風上げや空ゆるやかにすべりて来
小椋佳の声根やはらか冬の雨

植村公女

五つ六つ一葉一葉に萩の露
鰯雲西に透けるは浄土かな
銀の穂に山影映す小春かな
霜に立ち枯れの向日葵わが身かな
咲きそうで咲かぬまま散る冬薔薇

木村歩歩

冬ざれや壁にビュッフエのリトグラフ
一ノ関過ぎて冬田の広々と
津軽へと入るやそこに時雨虹

今泉如雲

冬晴の米沢東光酒の蔵

矢崎直人

高畠の樽の香ワインの並ぶ蔵

冬夕焼庄内平野に出羽の山

背の高きススキが揺れる道ゆけり

氷張る朝の蔵王の温泉郷

それぞれに影をもたせり満月光

今泉由利

米国より来たりて今日の桜花

満月の光りのもとに夏祭り

何をどう置きて決まるか春うらら

消えてゆく日のあることを心して

何の芽かしばらく待つとう春うらら

ひとひらの花卉となり散りゆきぬ

まて貝を驚ろかせたり塩少々

幸せな一世の終りゆく気配

シヨパンの24の前奏曲“雨だれ”聞こゆ

にぎわいのスポーツ途切れはや立冬

木風

黄葉のカサリと落ちて冬支度

天高く四百名の武道館

銀杏敷き高吟の冴ゆ武道館

武道館銀杏並木に優勝杯

秋澄みて時も切り裂く新幹線

小春日の直千金窓辺かな

秋深しホームでハトが餌探し

菱泉

日がくれて秋風ふいて虫の声

恵風

猛暑日の街路樹たえてめぐみ雨

同期思う目につく赤は彼岸花

雨上がり路上にちらばるギンナン臭

八甲田天狗の庭のもみじかな

摩周湖に深霧かかる朝景色

初孫やそろりそろりの乳母車

孝

月一の会外出着替え秋を知る
衣替する間もなきて秋深し

雅風

学校の無人コートに蝉の声
年老いて何度も起きる長き夜
うろこ雲魚が取れるぞ川は無し
秋風に信号機待つも影長く

紀風

甘と渋木登り熊どちらかな

篤風

折々の詩(二十三)

ふじのけんじ

運命

明日切り落とされる木がただ立っている

静かに 何も言わずに

自分の運命を知っているのに

ただ その運命を静かに受け入れているようだ

わたしは うろたえながら 悲しみを彼に伝える

しかし 彼は何も話さない

この姿を

大いなるものへの扉として

静かに入っていく

木は わたしを覆い包んで
笑みを見せる

永遠はもうそこまで来ているのだから
悲しむことはない
と言っているようだった

いずれ

大いなるものに
わたしも入っていく

沈黙のことばを 携えながら

五感を澄ませば(43)

杉浦恵美子

面白略語

最近はスマホで料理のレシピを検索すると、電子レンジ活用例が沢山出て来ます。

少し前までは、私も温め機能しか使っていませんでしたが、今ではこんな調理法もあるのかと、楽しいヒントがいっぱい。

因みに、調理の時短や油の使用量が減らせて低カロリー、茹でるよりも栄養素の流出が少ないなどのメリットがあるそう。

それって「レンジ料理」とか「レンジでチンする」とか言いますよね。

この言い方、念のために調べてみると、

「電子レンジで加熱が完了した際に鳴る『チン』という音から来ています」とのこと。

ところでレンジの「チン」とは何？

家庭用の電子レンジが普及し始めたころ「温め終わったことに気が付かず、取り出し忘れて冷めてしまう」という苦情に対応して温め終わったことを知らせる音の

こと。

開発者の藤原康宏さんは、サイクリングの時に鳴らした自転車ベル音からひらめいて「チン」を採用したと言います。

「街の喧噪の中、自転車のベルは小さい音ですけど人々の注意を引く音。これをレンジに組み込めないかと考えました」見事「チン」は当たり前。「温めること」を「チンする」と言うようになるほど「チン」音は浸透。
『毎日放送』

蛇足ながら、こんなQ&Aを見つけました。

「電子レンジで『チンする』以外の言い方は無いのでしょうか？うちの電子レンジだと『ピロリーピロリーする』になるのですが」

「『チンする』は既に一般的に広く使われているもので実際の音とは関係なくなっているので、別の表現方法は無いと思います」

「レンジチン」が当たり前のように話され、成り立ちなどはもうどうでもよくなっているんですね。

この例のように、改めて世の中で使われている言葉を観察してみると、いかに省略され、今や語源さえ不明な語の溢れていることか。

幾つか挙げてみましょう。

・アラサー アラウンドサーティ、つまり三十歳前後の人を指す。以下アラフォー、アラフィフ、アラセブ、アラエイ、アラナイ、アラハンと続き、なぜか六十歳だけはアラカン（アラウンド還暦）。

・カラオケ 空オーケストラの略語。アニメと同様日本から世界に広がったサブカルチャー。「Karaoke」で世界中どこでも通じます。また国や地域によって様々な形で進化。

・ガチ 語源は相撲用語の「ガチンコ」に由来し、真剣勝負を指す。主に若者語で、本気、真剣、本当にといった意味を指す。

・寒天 正式名称は寒晒しところてん。

・スタメン スターティングメンバー（和製英語）の略。

・ダントツ 「断然トップ」の略語。「ダントツで一番」とすると意味が重複します。

・チューハイ 正式名称は焼酎ハイボール。

俵万智の短歌で有名になった「カンチューハイ」は、缶入り焼酎ハイボールということになりますね。この短歌では「二本」と数えていて、つまり缶の酎ハイをそのまま飲むような場面設定。プライベートな空間が

想起されます。なるほど略語を効果的に使った歌なんですね。

・パリピ パーティ・ピープルを英語っぽく発音（↓パリピーポー）して略した言い方。多くの人が集まる場所に行つて皆で盛り上がることを好む人といった意味の若者言葉。

・メシウマ 「飯がうまい」を略した言葉。「他人の不幸でご飯がおいしい」、つまり、他人の失敗や不幸を見て喜ぶ様子。主にネットスラングとして使われる。

・ワンチャン 「ワンチャンス」の略。「もしかしたら」「わずかな可能性がある」という意味で使われる若者言葉。挙げたらきりがありませんが、略語は主に

若者言葉として発生しているようです。

何でも取り込んでしまう特性のある日本語がますます混沌としていきそうですが、反面、多彩な表現が可能になるとも言えるかも。

どっちが良いんだか。しかし変化は止めようがありません。

アナ雪とディズニーマニメのタイトルをしれっと略せる日本語の技

附 録（四十三）

矢 崎 直 人

冬晴れや車は北へ東北道家族旅行に山形蔵王

家族旅行に行きました。泊まったのは、山形の蔵王温泉。紅葉は終わり、雪はまだ降らない、観光にはオフシーズン。の山形行。両親と妹夫婦と私。那須高原SAでソフトクリーム（皇室御用達のチーズケーキのせ）を食べました。周辺の山冬木でしたが、銀杏は美しい黄色でした。

冬晴の米沢東光酒の蔵

道の駅 米沢 で昼食。ステーキとローストビーフの贅沢三種盛り丼を堪能しました。ラ・フランスの箱が積まれていて目玉のようでした。「為せば成るなさねば成らぬ何事も成らぬは人のなさぬなりけり」は江戸時代天明の飢饉の時代に活躍した米沢藩主上杉鷹山の言葉で新渡戸稲造や内村鑑三によって海外にも紹介されています。上杉家御用達の東光酒造に行きました。昔ながらの建物を残した資料館とお店。日本酒を試飲。今年取れたお米で作られたお酒を堪能しました。

米沢の酒造所小嶋総本店安土桃山続く東光

高畠の樽の香ほのとワイナリーワインの樽の並ぶ地下蔵

冬夕焼庄内平野に出羽の山

冬夕焼は、山を美しく魅せます。蔵王の雪、出羽の山脈。山がそのかたちを顕して迫りくるように思います。一刻一刻があつという間に過ぎてしまい惜しまれます。道路沿いにススキが生えていました。その丈の高さが高いことに驚きました。

冬夕焼庄内平野に出羽の山見上げるススキの背丈の高し

仙台により牛タンを食べて帰りました。

ステーキにローストビーフ牛タンに食べるや飲やの家族旅行に

『旧き友人たちと新しい年を迎える』

中 屋 保 之

今年は、十二支で「午⇨うま」年にあたる。餅をつく「杵」の形が元で、交互に打つ動作から「交差」や「切り替え」を表す。「午」は一日の前半と後半を分ける概念としても使われ、「午前」「午後」という表現が生まれたと伝わる。

また、我が国で年、月、日、時間、方位を示すためにも使われていた十二支での「午の刻」は、概ね午前十一時から午後一時までの二時間を指すので、「午の刻」のちょうど真ん中を「正午」と呼ぶ。従って、昼のニュースは「こんにちは。正午のニュースです」で始まる。また、方角でいえば「午」は南、北の方角「子」と組み合わせ、北極と南極を結ぶ経線を「子午線」という。

干支の中でも、「午⇨馬」は前向きなエネルギー・成功・繁栄のシンボルとして縁起が良いとされている。古くから、馬は神の使いとされ、人々の願いを神に届けるという信仰が広まり、神社へ「絵馬」を奉納する風習として現在に至っている。「左馬⇨ひだりうま」が「縁起が良い」と言われる。通常右向きに描かれる馬の姿を左向き（逆さ）にしたもので、『うま』を逆から読むと「まう（舞う）」になり、舞は祝い事や吉祥の象徴。左利きが「特別な力」とされたように、「左⇨吉」という意味合いを持つ。馬が人を乗せてやってくることから、「人が集まり、商売が繁盛する」とされる。

通常、馬は左側から乗ると倒れない（右から乗ると転ぶ）とされることから、「人生でつまずかない」「右に出る者がいい傑出人になる」という意味。『といった由来から縁起物として用いられてる。

中国由来の四字熟語である「馬到成功」は、「馬が到着すれば成功が訪れる」という意味の、迅速な成果・目標達成を象徴し、新年の抱負や挑戦を後押しする言葉と聞く。

万葉集に

新しき 年の初めに思ふどち

い群れてをれば嬉しくもあるか

だいぜんのだいふ ふなどののおきみ
大膳大夫 道祖王

がある。新しき 年の初めに 気の合う仲間同士で 集まっていると嬉しいものだ。の意だそうである。

ウマにまつわることわざに、【生き馬の目を抜く】というのがある。私が現役の頃、お客様から「生き馬の目を抜く」という諺があるが、お前の会社は死んだ馬の眼でも抜いてしまう」と揶揄されたものである。今でいう「ブラック企業」の最たるものだった！

【人間万事塞翁が馬】を決め込んで、【馬脚をあらわす】ことなく【馬が合う】仲間と安寧な一年を過ごしたいものである。

『酔いの徒然』（二六五）

丸山 酔宵子

『エジプトとトルコを旅して』

師走のはじまり。未だ夜が明けない真つ暗な早朝、自宅からスーツケースをゴロゴロ音を立てて引きずりながら最寄り駅の東横線都立大学に、そして成田空港に向かった。

「一生に一度はピラミッドを見てそして触ってみたい……」長年の夢を達成するため、今回の「エジプトとトルコ10日」のツアーに参加したのである。

当初は、ナイル川の優雅なクルーズで、カイロからナイル川源流のアフリカの中心まで行つて、アガサ・クリステイーの優雅な世界を堪能したいと計画したのである。しかし、残念ながら断念せざるをえない事実が判明したのである。

その断念した理由は、カイロまでの15時間はエジプ

ト航空使用。つまり、フライト中はイスラムの掟に忠実に従つて、アルコール全面禁止なことが判明したからなのだ。成田からカイロまで約15時間、ビールやワインを飲まずしての食事は我が人生に於いては考えられない。

成田からトルコ・イスタンブールまで13時間、そしてトランジットでカイロ迄3時間、ようやく夜遅くホテルに着いた。ホテルはカイロの郊外の新しくオープンした大エジプト博物館に近いカイロ・リゾートホテルで、名前の通り、プール付きのゴージャスなリゾートホテルで3連泊でのピラミッド及び古代博物館を巡る豪華な旅のスタートである。

3日間の見学スケジュールはツアー会社の綿密な計画によつてなされ、カイロ大学で日本文学を専攻した日本語堪能で、エジプト政府公認ガイドのワリド・マホメットさんの素らしい説明付きである。

先ず今回の目玉は、エジプト・ギザの新たなランドマーク「大エジプト博物館（The Grand Egyptian

Museum)」である。つい先月の11月1日にグランドオープンを迎えた。五千年を超える古代エジプト文明の至宝が集約され、その規模は、世界最大級の考古学博物館と称される。特にツタンカーメンの出土品約5,000点。

ギザの三大ピラミッドに隣接した唯一無二のロケーションに位置し、砂漠の地平線や巨大な遺跡を背景に、博物館と古代王国が地続きで存在するのである。世界からの観光客でごった返す博物館には、午後3時頃入館し、ガイドのワリドさんの愛国心に溢れた情熱的且つ詳細な説明で、夢中に見学して約3時間。もう既に、ギザの砂漠は夕日に輝いている。博物館最上階から眺めるピラミッドの姿は、この瞬間と古代が一体化し、子供の頃から憧れ抱いていた夢が現実となり感動の中に呆然と眺めるのみである。

因みに本博物館は1990年代に計画され、総工費は約10億ドル(約1440億円)で、日本は842億円の借款を供与し、遺物の保存・修復の技術協力も行っている。日本の多大な貢献は、博物館の中で正面銘板には、

アラビア語と英語に並んで日本語で「博物館」と刻まれている。更に、ツタンカーメンコレクションの解説文は、アラビア語、英語、日本語の3言語で表記されているのである。

夕焼けの砂漠に浮かぶピラミッド

酔宵子

【閑話休題】

子供の頃からの憧れのピラミッドを見てそして触るためにカイロに来たのですが、まず初日の大エジプト博物館見学で度胆を抜かれてしまいました。勿論、ギザの三大ピラミッドやスフィンクス、ピラミッドの発掘洞窟見学、ミイラ博物館など、この時とばかり精力的に見学し、同じように感激の連続でした。また、カイロの後のトルコも Cappadocia、Bamukkale、Efesus、ブルーモスク等の世界遺産とバスボラス海峡クルーズなどは次回機会とします。

風のひろば

高橋 育郎

風のひろばは こどものひろば
ほっぺのふくらむ かわいいこ
鬼ごっこするもの このゆびとまれ
ジャンケンポンよ あいこでしょ
まけたらおによ おいかけろ
風もいっしょに ワーイにげろ

風のひろばは げんきなひろば
かけあしするこ とんできた
このゆびとまれ なにして遊ぼう
おしくらまんじゅう おにごっこ
おにさんこちら 手のなるほうへ
風もいっしょに とびまわる

風のひろばは たこあげひろば
絵だこに字だこ やっこだこ
高くあがった うなりだこ
なわとびしましょう つなひきしょう
あっちもこっちも げんきなこ
風もいっしょに 遊んでる

風のひろばは 夕やけ小やけ
おててつないで かえりましょう
いちばんぼーし みーつけた
あしたてんきに しておくれ
歌をうたつて おててをふつて
さよならさよなら またあした

雀百まで

高橋育郎

1 雀百まで 踊り忘れず

身振り手振りの 軽やかさ
唄に合わせて 賑やかに

雀踊りは 総踊り

みんな輪になり シヤシヤンとな

ソーレ ソレソレ シヤシヤンとな

3 鶴は千年 亀は万年

踊り明かして 結ばれて

仲むつまじき めでたさよ

末広がりの 舞扇

さあさ踊れや シヤシヤンとな

ソーレ ソレソレ シヤシヤンとな

2

梅は咲いたか 桜はまだか

春を待つ身の 二人には

浮世の風が チョイと沁みる

夢にみるのは 蝶の舞

花よ咲け咲け シヤシヤンとな

ソーレ ぱつと咲け シヤシヤンとな

絹の話 (3)

「アトリエテレビ」今泉雅勝

絹は不老長寿の葉と言われたのは、繭を口で噛み蛹を食べていた遙か昔の事ででしょうか。

実は今日でこそ、機能性利用の絹の利用範囲は健康衣料、食品添加など含めて限りなく広がっています。

それでは、絹にはどんな絹が有り、どんな働きをするのでしょうか。

地球上には10万種以上の絹を作る生物が棲息すると、(1)で言いましたが、一般に世間で見られる絹は、白い糸(黄色糸も少し有る)、桑の葉で屋内飼育される家蚕(カイコガ科)と、茶、グリーン、金色などの有色で、桑の葉以外の広葉樹の葉を食べ屋外で育つ野蚕(ヤママユガ科)の二通です。

野蚕絹の機能性はいずれも家蚕絹より優れています
が、飼育、糸作りに極めてむずかしいので、世界中で各

種ほんの少量しか生産されていません。

絹を着ると言う観点から機能性を見ると、第1に抗菌性、防臭性に優れています。絹は各種菌の殺菌はしません
が繁殖を抑制します。従って汗などがアンモニアに分解される事を止めますので、汗くさくなりません。綿の下着は毎日取替えますが、絹の下着は4日間位大丈夫です。絹の靴下等も同様です。

院内感染を防ぐ為にも絹のシーツや下着、パジャマをお使いください。但ししなかで高価な絹より、綿の様な感じの少しゴワゴワした安価な物の方がより効果があります。体臭、老臭防止にもなります。床ずれ防止にも役立ちます。風呂などに入らない平安貴族も絹のおかげで十二一重の中も衛生的だった様です。

第二に保温・放温、保湿・放湿性に富んでいます。

絹は蛹を守る為の生命維持装置です。温度、湿度をいつも一定に保とうとします。

従って絹を着用すると品良く温かく、しっとりして気

持ちが良いのです。抗菌性と相まって風邪などひきにくくなるばかりか、肌に潤いを与えてくれるので、年配になっただけ着用をお勧めします。

また絹は綿の2〜4倍の早さで乾きますので、気化熱を奪われる時間が短い為、冬山登山では命拾いする事が有ります。

第三に防紫外線性です。絹は短い波長を反射、吸収する性質が有りますので、ストールなど日焼け防止にご利用下さい。

つづく

「江上浩二の独り言」 97 江上浩二

太平洋3山

太平洋3山、令和7年秋ごろに、まとまった話として聞いたが、ぼーとしていたら書き始めがこんなようになっちゃった。

先日、日本の強み、それはある種の絶対的ポジションであると思った。日本の国土は約37万平方キロメートルと小学校で習い、その小さな国土に1億人以上が住み、世界第2次大戦後、安くて戦勝国に買って貰えそうな商品から開発し、安からう悪からうという先入観を捨て、品質改善に徹して、工業製品等を輸出し、外貨を稼ぎ、1951年の戦後処理のサンフランシスコ条約に署名して、よちよち歩きの日が世界に出始めたのである。

そこで、今日本寄りの風が吹き始め、EEZ 排他的経済区域が急速に増加しようとしているのだ。これは、島国や日本の様な地理的条件を満たすところには、絶好のチャンスであろう。

しかし、よく見ればまだ和平への道が見えていない周囲が土地地面であるウクライナをはじめとする国々には直接的な関心が沸かないと思う。

太平洋3山って、何と聞かれれば若干なりとも、少し齧ったものとして、プレートテクトニクスの話から始めないといけない。

19歳頃と記憶してるが、専攻が材料系学科であったので、当時まだ珍しかったプレートテクトニクスの講義を取る機会に恵まれ、大学内では講師側の人材が乏しく、学外の専門家が当時、十分な資料もなかったので市販の日経エレクトロニクスという雑誌に記事としてとりあげたものを参考にしながらプレートテクトニクス理論の話をされた。

簡単にいうと、太平洋側の重たい地形が日本が浮かぶユーラシア大陸の下側に入り込んで、1年に7-8cmの速度でもぐり込むという、地球上の表面を構成する大陸が複数枚あってパンゲアという1つのプレートとか1枚の大陸が数億年前に、分裂を開始し、現在に至っており、今後もこの動きは継続していくという。現在の地球儀で確認できる模様となります。

注…マントル対流はブルームテクトニクスと呼ばれ、マントルの湧き出しがあって、個々のプレートの動きに繋がる。

さて本題にもどすと、太平洋の山が3つという意味で太平洋3山という表現を選んだ。海面下に巨大な火山が存在していることはご存じと思うが、どの位の火山かという実例は超有名なハワイ島で、海の上の姿で標高4000m以上もあり、海面下の部分も含めるとエベレスト8848m以上にもなる。そういったイメージもちつつ、話を続けるが火山は非常に短期間でその姿の盛衰を変える。

いまでは、ここで取り上げる日本の3山は次の3島／西之島新島／硫黄島／沖ノ島島をいい、話題の中心としたい、

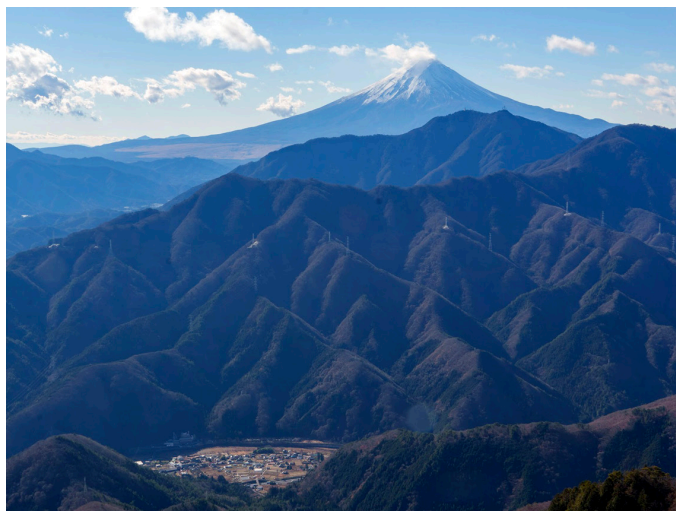
1. 西之島、1973年頃から火山噴火活動が徐々に活発化して、40年後の2013年、そして2023年、つい最近11月の晩秋の時節には気象庁がカルデラ湖が形成されていることを発表し、面積が60倍となり、領土領海、EEZの拡大。それだけに留まらず、自

然科学にも、新たに形成された火山島にいかん生命が宿るか、火山島が環境問題に与える影響等の研究に貢献する。

2. 硫黄島、イントロでわざわざ1951年のサンフランシスコ条約で日本の米国による統治が解かれ、はれて日本国土として認知された。
その硫黄島の一部が、凄い速度（年数十cm、戦後の80年という期間だけでも数十mも）で隆起しているそう。

3. 沖ノ島島、この波間に消えてしまいそうな名は故石原都知事の頃、正直言って岩なのか、島なのかの議論があって、ちっけな岩の周囲に消波ブロックを積み上げた姿は、見たくなかったが、この辺も隆起しているそうで、はれてEEZの拡大に貢献という、肩の荷が解かれた様にはっとした次第です。

後記、丁度この咬きを止めようとした時に令和7年12月8日深夜にM7.5 震度6強の大きな地震が発生し、これは正に太平洋プレートが年7-8cmの速度で動いていることの証である。



初狩便り
(50)



花
野
み
ぷ
り



鶴ヶ鳥屋山つるがとやま

私たちの棚田の西側正面に三角錐の端正な山・鶴ヶ鳥屋山がある。冬は空気が冴えきつているので稜線がくつきりと見える。春、田んぼに水が入ると、逆さ富士ならぬ逆さ鶴ヶ鳥屋山となり、夏は青田に映え、秋には黄金の稲田を見下ろして聳え立つ。その姿は美しく、時には神々しくも見える。富士山の北側に位置し、標高1374m、麓から見上げると存在感のある山だけに、登山は相当にきつい。急登が続き、道はわかりにくく、気の抜けない山登りとなる。ただ沢の水量は豊かで、ミズナラやクヌギ、クリなどの落葉樹の森は気持ちが良い。早のひどい時でも笹子川の水が涸れることがないのは、保水力のあるこれら雑木の森のおかげと思う。

鶴ヶ鳥屋山を見上げると大きな鉄塔が田んぼからもはっきり見える。大きな送電塔だと思っていたら、リニア実験線に電源を供給する鉄塔らしい。

鶴が鳥屋山はいつも私たちを見守ってくれている。鶴が鳥屋山につながる、山の神、水の神、田の神に、そしてお日さまに、今年も無事故で豊作となるように祈ろう。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言
<https://hondachiro.exblog.jp/>

2025年11月12日

心と身体

すつかり 朝 布団から出るのが

億劫になる気温になりましたね笑

気がつけば 11月中旬

今年も残すところ1ヶ月半になりました

この1ヶ月半を

体調を崩さないように乗り切りたいものです

今の時期は

精神的にも不安定になりやすいんです

身体の健康を体力を落とさないようにする

ということが重要になってきます

3S+ゆたぼん+ヨーグルト+八分+湯舟 は

それらのことが要約されています

特に

睡眠 は本当に重要です

それ以外には

食事をしっかりとし 食べ過ぎない腹八分

も大切になってきます

この2つを意識し

体力を落とさないようにしましょう

寒くなると ついつい水分補給が減ってしまいます

意識的に尿の回数を数えて目安にしましょう

それ以外の

3S+ゆたぼん+ヨーグルト+八分+湯舟 も

普段の生活に組み込み

身体を心を労わっていきましょう

今日も笑いながら楽しんで行きましょう

2025年11月28日

ふんばりどき

昨日は 気温が低く

今日は 暖かい

と日替わりで気温が変わっています

日々の寒暖差は身体に大きな負担がかかります

そうしますと

身体が疲れやすくなります

そういうときに

ぎっくり首 めまい 背中の痛み ぎっくり腰

といった症状や

目の疲れや不調

寒冷じんましん

花粉症などのアレルギー症状

などが出やすくなります

そうしますと 必然と免疫力が落ちてしまいます
ですので

またか・・・

と思うかもしれませんが

3S＋ゆたぼん＋ヨーグルト＋八分＋湯舟が

必須になってきます

手洗い（30秒以上）

うがい（緑茶で30分に1回）

15分に1回ちょこちょこ飲み

アルコール消毒 マスク

ワセリン

などをやり

慌ただしい 師走 を元気に

体調を崩さず すこしましう

今日も笑いながら楽しんで行きましょう

康鍼治療院 (www.yasuhari.com)

玄 翁

「令和八年干支・丙午」
ひのえうま

令和八年・丙午
ひのえうま

六十周期の干支のうち
四十三番目のめぐりなり

「丙」は十干三番目
ひのえ

火の兄で 陽の年回り
ひのえ

丙とは 厩いの内の火が
盛んに燃えて 火が灯り
明るい光を 現して

陽気は満ち満ち 極まりて
万物躍動 光に照らされ
色んなモノが見えてくる

「午」は 十二支七番目
うま

火性の陽の火 太陽で

正午に一番高くなり

陽の極まる時であり

万物最も 盛る時

午の字は 杵が由来となり
形は交差し 動きは上下
陰陽交わる 正午となる
ひる

「丙午」は陽満ちる
ひのえうま

陽と陽が 比和されて
火性の最も 強い年

伸長してきた 成長は
ここで一旦 停止して

枝葉を広げて 膨張する

草木の繁茂の 象徴で

太く肉付き 余力となる

今まで やってきた事が
良くも悪くも 勢いよく
現れ 現実動かす時

力が強くなりすぎる故

衝突・ぶつかり 避けるには

力を抜きて 脱力し

余裕を活かして 動ければ

万事 恵方に進むなり



「生き方五行 土性」

土性は土の気 大地の氣
土が地上の万物を

受け入れ 消化し 変化させ

四季折々の彩りと

形を作りて 変容し

新たな成長 つくり出す

土性は消化を主り

胃腸の働き動かして

飲食物を ゆつくりと

消化し 分解・吸収し

取り入れられた栄養素

代謝し血となり肉となり

身体をつくりて 維持をする

頭も消化が必要で

理解不能な 物事を

消化するべく 意識で思慮し

分解・整理し 組み立てて

意味が通れば 腑に落ちて
認識・理解が 深まりて
精神・思考を育ててく

胃腸と頭で働く 土性

共に消化の「間」が必要

食べ物・物事 取り入れて

栄養・養分にしたけば

詰め込み過ぎに 注意して

ゆつくり消化に時間をかけて

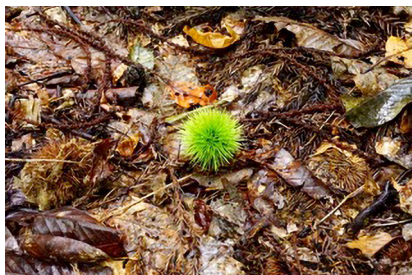
腐熟と成熟を 待つが良い

然すれば 新たな養分が

内部で醸成 生み出され

心身共に 充実させて

生きる糧となつてゆく



閑かに秋蟬を聴く しず しゅうせん き
墓前に作有り ぼぜん さくあ
横山精真

九月風高うして く がつかぜたこ
晩蟬を聴く ばんせん き

墓前の澄爽 旻天に満つ ぼぜん ちようそう びんでん み

人生の邂逅 心氣を盛んにす じんせい かいこう しんき さか

恩師に請願す おんし せいがん
老をして研かしめんと ろう みが

閑聴秋蟬（兼題） 墓前有作
令和九月二十一日

九月風高聴晩蟬 墓前澄爽滿旻天
人生邂逅盛心氣 請願恩師使老研

(語釈) 〇墓前…福岡県春日市原町にある。〇晩蟬…時期遅れの蟬。〇澄爽…澄み切って爽やかなこと。〇旻天…秋空。〇邂逅…巡り会う。出会う。〇心気…心。〇請願…誓いを立てて願う。〇恩師…原文二先生。外科医であり吟道の師。〇老…先生の門下であり歳を取った作者。

(通釈) 九月の秋風が天高くふいて蟬の声を聴いた。恩師のお墓の前に立つと、澄み切って爽やかな空気は空いっぱい満ちていた。

お墓の前で新たに思うのは有難い出会いが私の心を奮い立たせてくれる事だ。先生、どうか老いた私の心を磨かせてください。と手を合わせた。

※ 原(文二・精龍) 先生のご長男洋先生と博多のホテルオークラでお話をする事が出来た。

体の調子を完全に崩した八月に珍しく洋先生からお手紙を戴いた。「原外科医院の建物が解体され平地になった。」と云うことである。社会人一年生にして有り難い出会いがあり私の人生が始まった所でもあった。やつとの思いで手紙とお祝いを届けた。そして博多で他用を済ませた後に再会出来たのである。過去には洋先生のご依頼で文二先生の弔辞も読んだのだが、初めてゆっくりとお話が出来た。文二先生とは別に繋がっている不思議なご縁の話もあり楽しくもあった。一段落して洋先生は「今にしてと思われるかも知れないが、父が若い貴方を特別に可愛がっている事は承知していたが、貴方の父に対する思いの深さがよく解った」と仰った。すぐ一人で墓前に報告し、その足で佐世保に向かった。電車が到着する時、詩が出来あがった。

顔馴染みになったホテルフロントのチーフが快く出迎えてくれたが、ホテルのテラスで一吟聞いて頂くことにした。清々しい夕暮れであった。吟じ終わると「うわー、映画の一場面を見るみたいだ」と言って賛嘆してくれた。



時の輪廻

まばたきする間に支払われ、届く世界

4年ぶりにインドへ。ムンバイー私にとってはやはり「ボンベイ」に降り立ったとき、不安が胸をよぎった。変わったのは街だけではなく。この4年で、インドは電子決済とデジタルライフを全面的に受け入れていたのだ。

「必要なスマホのケーブル、5分で届くよ」と友人が言う。彼がスマホを操作すると、Blinkitが玄関に現れた。確認すべきは、ちゃんと使えるケーブルかどうかだけ。ヨーロッパでは見逃していた「クイックコマース」の波に、インドはすでに乗っていた。いまや中国、アメリカに次ぐ第3の市場であり、2024年から2027年にかけて市場規模は3倍に成長すると予測されている。

別の友人に、季節の好物シャリーファ（カスタードアップル）が欲しいと言うと、「八百屋よりBlinkitの方が安い」と返された。夕食から戻ると、ビニールに包まれた4つのまだ熟していない果実が、茶色の紙袋に入って届いていた。

Blinkitの便利さの裏には、“ダークストア”のネットワークと、数分配達を可能にする賃金格差がある。経済学で「外部性」とされがちな廃棄物も、qコマース利用家庭の需要を6～8%押し上げる要因になっている。

この便利さとデジタル割引の組み合わせが、地元の小売店を静かに圧迫している。

果物を巡る何気ない会話の中に、その変化はすでに現れていた。

Circles of Time

Atiya Hussain

Blink, and its paid for ... and delivered

Four years after my last trip to India, I landed in Mumbai – or, as I prefer, Bombay – with a lot of apprehension. The India I landed in had, naturally, changed. In the four years that I had been away, India has embraced e-wallets and the digital life. As my friends explained the latest trend to the outdated tourist: quick commerce.

“Would I be able to get the phone cable I needed delivered within five minutes to my doorstep?”

He fiddled with his phone, and Blinkit was at the door. All that was needed was to ensure it was the right cable, and that it was in working order. While the fast commerce trend passed me by in Europe, India has become the world’s third largest market in quick-commerce, behind China and the United States, and is expected to post three-fold growth between 2024 and 2027.

And when I asked another friend about getting some custard apple, my favourite seasonal fruit, she said her local grocer was more expensive than Blinkit. We came back from dinner to a brown paper bag with four (unripe) fruit, abundantly wrapped in plastic.

Behind the convenience of Blinkit lies a network of ‘dark’ stores and a global wage gap that makes five-minute deliveries profitable in India. The waste, notoriously considered an externality in economics, underwrites a 6-8 percent increase in demand in households that use q-commerce platforms.

And as is clear from my friend’s suddenly uncompetitive local fruit grocer, the sheer convenience of q-commerce is coupled with digital discounting, is encroaching on neighbourhood markets.

編集室だより【二〇二六年一月】

今 泉 由 利

歌集「地球にて」

小さくとも影を作れりパームツリーその影頼りて暫くいたり
ティパの木より散りくる黄の花積りたりしばし止めたる私の車に
オレンジの花に寄り来る蜜蜂を見ているばかり人を待つ間は
マルガリータ二杯を飲むを常として土曜日の夕刻まだ明るきに
靴埋もる二歩二歩のやさしくて夏になりたり我庭の芝
下弦の鋭き月の曲線に向いつつをりこころスアンゼルス
日本の大地に吾れ乗る飛行機の影少しつつ大きくなりて
大き空見上ぐることの多き日々雲の図鑑を買わむと思う
ひと時を父母の温もり伝わりき我の掌を見ている飛行機の中
満席のジャンボジェット機の先端にて我が誕生日過ぎてゆくなり

ほのかなる宇宙も地球も見渡しぬ操縦室の丸き窓より
人間の引きたる線に従いて我誕生日二日間あり

三日後に金環食となる太陽沈んでゆくよバックミラーに
かそかなる音聞えつとけてゆくコップに浮かす南極の水
いつの代の空気をふくみて凍りしか南極の水の音聞いている
身づくろいしているリスを見ておりぬバックミラーの角度を変えて
椰子三種の鉢植を部屋に置きながらカリフォルニアに来り住みおり
羽ばたきの力強さの伝いくるハチドリ来おり我家の合歡に
二三日まちがえしかと早々に下弦の月となりおり今夜
プロペラは透明になりて廻りつつプロペラ透して砂漠を見たり
何物も無理と思はゆ砂漠にも一本の道引かれてありぬ
逆光に荒々しさの消えゆきて砂漠は淋し私は寂し
長き長き浸食の年月をこともなくひと日の旅にわれは見終えし
はうれん草日々に食みつ二年をボバイの国にわれは過しぬ

0メートルより始めて今日は三万キロアメリカ国を走り走りで

浸食の長き年月見し土地に續きてネオンのラスベガスあり

Tシャツのままに迎える十月を憎みつつおりカリフォルニアで

冷凍庫に仕舞いし和菓子のあることに私は少しやさしくている

強風に落ちし枝を飾りたり我がキッチンにユーカリ香る

水道の水に伸びゆくアボカドにガラス越しなる光の届く

鈴懸の紅になれる葉をつ拾いてしばらく歩みゆきたり

帰り来てまず見る櫛の木の香り香りて我家の十二月なり

六フィートの櫛の木に潜み住みいしか我家に來たれるこの蝸牛

ずつしりと砂漠の重み感じつつ二年住みぬ慣れざるままに

沈みゆく太陽に向き走りゆく加州のフリーウェイを

スカンクが大群なして棲むというその山近く我等住みおり

狼か狐かななどと言い合うもたちまち紛るるハイスピードに

スカンクの臭いというを知りてゆく朝早々のフリーウェイに

音たてて胡桃の落葉今年踏む去年の音のよみがえりつつ

黒く飛ぶ蜂に従い歩み来て淡き紫の麻の木あり

捻挫せし左の足をかばいつクローバーの咲く野原にいたり

新しき職種と言いて犬達の散歩屋に出逢うブエノスアイレス

吹く風も残るセイボの赤き花も心地よきかなアルゼンチンは

夏の日を忙しく動くさま見ゆるアルゼンチンに棲みいる蟻よ

梔子の大きな花束いただきてブエノスアイレスの昼下り歩く

弾き飛ぶ種子を踏みたりバレルモのセイボはアルゼンチンの国の花

夕焼けを透かしつつゆるるバレルモのユーカリの太木に馴染みて久し

マンゴーの緑の実のなる木の下にマンゴー買へりブラジル朝市

旅人の木あり來たりてブラジルに旅の二夜を過しぬ

砂浴びをしている雀より白き砂がわれに飛び来るバレルモ公園

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一五〇・〇〇一三

東京都渋谷区恵比寿三・四五・三

フオーレストヒルズ三〇二

ケイタイ 090・8434・8646

TEL 03・6765・5838

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail imayurizm@gmail.com

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。

三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和八年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行 今泉由利